# 伊達町農業協同組合（ＪＡ伊達町）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 代表理事組合長 | 菅　野　與　一 | 役　員　数 | 15名 |
| 所　在　地 | ㊡960-05 伊達郡伊達町 | 理事 | 12名（うち常勤　1名） |
| | 大字伏黒字一本石1 | 監事 | 3名 |
| | ☎0245－83－3311 | 職　員　数 | 29名（男22名　女7名） |
| 設立年月日 | 昭和37年7月1日 | 臨時 | 4名 |

## Ⅰ　地区の概況

当町は、県北部に位置し、東西に5.4km南北に3.5kmの広がりを見せ、総面積9.22km²である。西と南は福島市、東は保原町、北は桑折町に接している。阿武隈川が町中央部を北流している。

古くから伊達地方の玄関口として交通の要所に位置し、南北に国道4号、東西に国道399号が走り県内外の各方面と結んでいる。また、西部にＪＲ東北本線伊達駅があり、南端部を阿武隈急行が通り、東北自動車道国見ＩＣに6.7km、飯坂ＩＣに7.3kmと交通至便な所である。

農家数は、平成2年現在544戸で昭和45年に比べ123戸減少している。専兼別では、専業農家は減少傾向を示しながらも全農家に占める割合は高く、伊達管内第1位、県下第5位である。兼業農家では第Ⅰ種兼業農家が減少し第Ⅱ種兼業農家が増加し、兼業所得への依存度を高めている。

農業生産は、もも・りんごを主体とした果樹栽培が中心で、果樹園が全耕地面積の52％を占めている。しかし近年は年々減少の傾向にある。

# Ⅱ　50年のあゆみ

## 1　地区農業の変遷

当町の耕地面積は442haで、うち田が125haで28％、果樹園が228haで52％、畑が89haで20％である。（平成２年センサス）

したがって、古来より畑作中心の農業経営が営まれてきた。阿武隈川沿岸の伏黒村、長倉村、岡村はともに地味肥沃で養蚕が栄え、1773年の蚕種改めで幕府から「奥州蚕種本場」の呼称が許され、名実ともに日本一の養蚕地帯となった。

また、果樹園芸においては、明治10年になし、同20年にはおうとう・ももと現在の果樹生産の源流となった栽植が導入された先進の地でもあった。

養蚕業は、絹織物等の輸入自由化・繭価の下落等で衰退し、一面の桑畑はもも・りんご・おうとう等の果樹園に切り変えられ、果樹産地として変貌した。

平成２年の農協の販売高は５億5000万円うち果実が３億7000万円で67％、野菜が１億3000万円で24％、米穀が5000万円で９％であった。

**図表１　地区農業の変遷（農業センサスより）**

| 項目＼年次 | | 25 | 35 | 40 | 50 | 60 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総農家戸数 | (戸) | 881 | 749 | 703 | 630 | 575 | 544 |
| うち専業 | (戸) | 584 | 267 | 167 | 132 | 134 | 124 |
| Ⅰ種兼業 | (戸) | 180 | 292 | 263 | 129 | 129 | 110 |
| Ⅱ種兼業 | (戸) | 117 | 190 | 273 | 312 | 312 | 310 |
| 経営耕地面積 | (ha) | 730 | 605 | 560 | 486 | 457 | 442 |
| うち田 | (ha) | 213 | 178 | 166 | 143 | 130 | 125 |
| 畑 | (ha) | 333 | 153 | 92 | 93 | 87 | 89 |
| 樹園地 | (ha) | 184 | 274 | 302 | 250 | 240 | 228 |
| 収穫面積 稲 | (ha) | 207 | 172 | 161 | 137 | 119 | 93 |
| 麦類 | (ha) | 240 | 108 | 30 | | 1 | |
| 野菜類 | (ha) | 116 | 84 | 70 | 73 | 74 | 73 |
| いも類 | (ha) | 88 | 34 | 30 | 16 | 9 | 14 |
| 果実類 | (ha) | 94 | 165 | 196 | 246 | 240 | 222 |
| 桑 | (ha) | 60 | 36 | 27 | 4 | | |
| 飼育頭羽数 乳用牛 | (頭) | 11 | 16 | 4 | 8 | | |
| 肉用牛 | (頭) | 203 | 101 | 37 | 17 | 22 | 64 |
| 豚 | (頭) | 97 | 297 | 440 | 508 | 106 | 60 |
| にわとり | (千羽) | 2 | 3 | 7 | 49 | | 1 |

## 2　経営の推移

### (1)　農業協同組合の設立

戦時中から戦後かけての食糧難時代に大きな役割を果たした「農業会」は、これも戦時体制の一つということで連合軍によて排除された。それに代って、農村の民主化と農家経営の安定向上を目指して新しい組織を作るということで昭和22年11月に農業協同組合法が公布され、農業会は解散となった。

この法律にもとづいて全国的に農業協同組合が設立された。当地区でもいち早く設立に取りかかった。伊達町と伏黒村の農業会の資産を受けて伊達町には伊達町農業協同組合が設立されたが、伏黒村には伏黒村農業協同組合と伏黒村第一農業協同組合と小幡中瀬農業協同組合の3農協が設立された。小幡中瀬地区は後日保原町に分村編入した所だが、伏黒の同一地区に伏黒村農協、伏黒村第一農協の二つの組織が生まれたのである。

これには、それ相応の理由があったと思われるが、はっきり言えることは当時の世相を反映

**図表2　主な勘定と事業の推移**　（単位：千円、共済：百万円）

| 項目＼年度 | | 24 | 30 | 37（合併年度） | 40 | 50 | 60 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 正組合員戸数（戸） | | 1,001 | 769 | 711 | 713 | 648 | 571 | 568 |
| 准組合員戸数（戸） | | 151 | 223 | 181 | 194 | 291 | 374 | 416 |
| 資産 | 余裕金 | 6,139 | 8,403 | 56,112 | 117,706 | 622,189 | 1,319,087 | 2,337,717 |
| | 貸出金 | 2,821 | 25,165 | 93,387 | 119,689 | 372,007 | 807,802 | 684,205 |
| | その他流動資産 | 6,032 | 23,171 | 29,594 | 39,756 | 130,633 | 334,846 | 190,801 |
| | 固定資産 | 4,466 | 8,500 | 18,148 | 19,731 | 53,645 | 73,730 | 53,442 |
| | 外部出資 | 180 | 4,841 | 5,873 | 11,019 | 22,218 | 46,594 | 62,126 |
| 負債及び資本 | 貯金 | 14,220 | 34,167 | 118,563 | 201,661 | 1,008,144 | 1,989,864 | 2,792,416 |
| | 借入金 | 5,335 | 22,507 | 23,897 | 43,337 | 15,012 | 224,889 | 78,913 |
| | その他負債 | | 3,724 | 47,438 | 41,128 | 122,336 | 290,338 | 319,793 |
| | 出資金 | 1,697 | 9,438 | 15,177 | 20,505 | 52,257 | 94,794 | 114,342 |
| | 積立金 | 50 | 120 | 198 | | 2,630 | 31 | 18,476 |
| | 剰余金 | | 118 | −2,159 | 1,270 | 313 | −17,857 | 4,351 |
| 主な事業実績 | 販売取扱高 | 44,003 | 115,260 | 174,696 | 297,625 | 513,775 | 586,575 | 622,316 |
| | うち米穀 | | 12,468 | 14,491 | 28,838 | 79,386 | 88,605 | 58,379 |
| | 果物 | | 96,056 | 147,497 | 190,100 | 278,369 | 328,823 | 396,708 |
| | 野菜 | | 195 | 5,077 | 35,167 | 57,228 | 168,639 | 167,229 |
| | 購買取扱高 | 20,619 | 50,703 | 85,273 | 135,150 | 352,116 | 565,372 | 567,177 |
| | うち生産資材 | | 42,991 | 65,017 | 93,566 | 218,089 | 399,133 | 424,001 |
| | 生活資材 | | 7,712 | 20,256 | 41,584 | 134,027 | 166,239 | 143,176 |
| | 長期共済保有高 | | | 226 | 350 | 5,311 | 28,094 | 45,610 |

（注）合併以前の年度は合併参加農協の合計

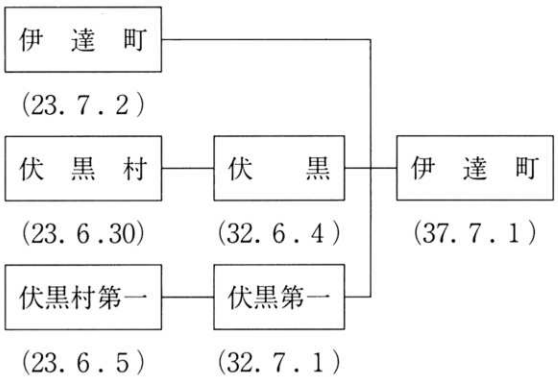
した動きであったということである。つまり、誰にも束縛されないで自分たちで自由に行動するという戦後民主主義の雰囲気をそのままに実行に移したことが、二つの組織が生まれた理由であったと言える。

(2) 設立当時

戦後の激しいインフレをくぐり抜け、一転して昭和25年以降は、農家の収入が落ち込み、それに伴い農協経営も厳しさを増してきた。このような環境のなかでごく僅かであっても黒字決算にこぎつけることができたのは、関係者の努力の賜ものといえよう。

小幡中瀬農協はこの時期再建整備の指定を受けて建て直しに努めたが、残念ながら30年に解散するに至っている。

**図表 3　合併等の経緯**




**図表 4　合併参加農協の概要**

| 組合名 | 組合長名 | 組合員数 | 役員数 | 職員数 |
|---|---|---|---|---|
| 伊達町 | 吉田　正雄 | 397 | 12 | 10 |
| 伏黒 | 金子八郎治 | 233 | 13 | 10 |
| 伏黒第一 | 小野　金雄 | 467 | 14 | 20 |

(3) 昭和30年代　― 合併と大凍霜害

農村を取り巻く諸情勢は、貿易の自由化、産業構造の変化、国民生活の変遷、農業労働力の他産業への流出等、益々農家経済と他産業との所得格差を拡大し、農協経営は益々厳しくなってきた。

農民の自主的結合体として発足した農協も、設立当初のままでは内外の変化に対応して充分にその機能を果たし組合員に最大の奉仕をすることが困難となり、これらを克服するため37年に町内３農協が合併をした。

昭和39年４月29日の大凍霜害により、主生産物である果樹と桑園は一朝にして実に深刻な打撃を受けた。このため、農協の事業計画は根本から覆されるに至って、５月17日に改めて臨時総会を開催して計画の変更をした。

この年は、８月下旬以降長雨低温となり水稲・野菜にも収穫の減少を来し、農家にとっては誠に最悪の年となった。災害援助法の発動に伴い、国を始め県・町を挙げての温かい援助措置ならびに１億円に近い長期低利資金の融資と、難局の打開と災害対策に明け暮れた次第であった。

(4) 昭和40年代　― 減反・オイルショック

昭和40年代の当初は米の大豊作の連続であった。米の売渡し実績は予約数量対比40年は135％、41年は118％、42年は140％、44年は米価の据え置きとなり、45年からはついに操業短縮ともいうべき作付け減反となった。

46年にはドルショック、49年にはオイルショックに会い経済情勢が急速に鈍化した中にあって一層厳しさを加えた。

農協経営は合併当初は赤字決算であったが、40年度より黒字決算で推移した。

(5) 昭和50年代

昭和50年代の農業情勢は、国際的な経済変化の影響と農産物の生産過剰と合わせて農産物の輸入枠拡大と自由化の対応が迫られる中で、いちごの出荷については全量農協出荷となり、販売額は1億円を突破した。

(6) 平成時代

昭和61年、米は平年作を上回り3年続きの豊作となった。予想された生産者米価の値下げは運動により据え置きと決定された。しかし米価問題が引き金となって政財界とマスコミによる農業・農協つぶしにあい、過剰米の保管管理販売を農協におしつけられた。

62年からは水田農業確立対策が打ち出され、転作面積の大幅な拡大と助成金の削減を強いられた。伊達町も水田の25%にあたる32haの転作を余儀なくされ、農協も行政と協力して減反達成の責任を負わされた。

農産物市場開放を求めるアメリカの圧力が強まり、農業・農協を取り巻く情勢は内外共に一層厳しくなった。

農協経営は主要事業は全体的に伸び悩みとなり、収益部門の柱であった信用部門が金融自由化の進行に伴い収益が激減する局面をむかえた。

(7) 新たな出発

今後のＪＡ経営には、新たな発想に立った組合員対応とＪＡの合理化、組織の再編、そして役職員一体となった専門知識の向上が求められている。

現在平成7年開催の国民体育大会にむけての会場や道路の建設、県北地区のし尿処理場の建設等の整備が急速に進められている。農業面では、水田営農活性化対策の実施を始め農畜産物輸入圧力、農村社会構造の変化、金融の自由化、高度情報化の進展など農業とＪＡを取り巻く情勢は一段と変化しており、今後の適切な対応が求められている。

ＪＡは、このような社会情勢のもとで広域合併により、地域の特性と自然を十分に理解し農家組合員の質的変化と多様なニーズに対応できる経営基盤と営農体制の確立を図る必要がある。

# Ⅲ　年　　表

| 年月日 | 主な事績 | 年月日 | 主な事績 |
|---|---|---|---|
| **23年** | | **48年** | |
| 6. 5 | 伏黒村第一農業協同組合発足 | 10.16 | 生産資材店舗完成 |
| 6.30 | 伏黒村農業協同組合発足 | **50年** | |
| 6.30 | 小幡中瀬農業協同組合発足 | 3.31 | 野菜集荷場落成 |
| 7. 2 | 伊達町農業協同組合発足 | **53年** | |
| **25年** | | 10. 7 | 本所事務所改築落成 |
| 4. 1 | 小幡中瀬地区が伏黒村より保原町に編入 | . | 第１回農業祭 |
| **31年** | | **56年** | |
| 9.30 | 伏黒村と伊達町が合併して伏黒村となる | 5.25 | 信連　貯蓄増強優良表彰 |
| **32年** | | 6.26 | 果実共選機導入 |
| 1. 1 | 伊達町と町名変更 | 7. 3 | Ａコープ伊達店開店 |
| 6. 4 | 伏黒農業協同組合と名称変更 | **57年** | |
| 7. 1 | 伏黒第一農業協同組合と名称変更 | 7.23 | 果実共選機導入 |
| **37年** | | 10.25 | オンライン稼働 |
| 7. 1 | 伏黒農協、伏黒第一農協、伊達町農協が合併して伊達町農業協同組合設立 | **58年** | |
| | | 5.27 | 共済連　保有契約高優秀表彰 |
| 10. 5 | 合併設立記念大会 | 7. 2 | ガソリンスタンド開店 |
| **38年** | | **62年** | |
| 4.21 | 第１回通常総会 | 2.20 | ＣＤ（自動支払機）オープン |
| 6. 6 | 全共連　長期共済新契約優績表彰 | **63年** | |
| **39年** | | 10.22 | 米市場開放阻止県北地方決起集会 |
| 5.17 | 伊達町大凍霜害対策農民大会 | 11.12 | 秋の農協大展示即売会（～13） |
| 5.17 | 臨時総会（事業計画変更） | **元年** | |
| **41年** | | 6. 7 | 中央会　教育文化事業優秀表彰 |
| 11.11 | 伏黒地区農集電話開通 | **2年** | |
| **42年** | | 5.30 | 共済連　長期共済新契約優績表彰 |
| 5.30 | 経済連　系統利用優良表彰（果実） | 10. 8 | 保原町農協・伊達町農協合併研究会 |
| 6. 1 | 果実共選場落成 | **3年** | |
| **43年** | | 5.27 | 経済連　系統利用優良表彰（農薬） |
| 5.28 | 経済連　系統利用優良表彰 | **4年** | |
| 12. 6 | 自動車整備工場認可 | 2.10 | 伊達南部食材宅配センター開所式 |
| **44年** | | 4. 1 | ＣＩ活動導入　愛称ＪＡ伊達町 |
| 4. 7 | 果樹人工交配花粉開葯所開所 | 6.25 | 伊達地方ＪＡ合併研究会設立総会 |
| **45年** | | 11.31 | 年金友の会設立総会 |
| 5.21 | 全共連　長期共済新契約優績表彰 | **5年** | |
| 7.20 | 果実用予冷蔵庫落成 | 2.28 | Ａコープ伊達店閉店 |
| **47年** | | 6.31 | 果実共選場下屋工事完成 |
| 3.20 | 水稲育苗センター開所 | **6年** | |
| 5.26 | 経済連　系統利用優良表彰（園芸資材） | 2. 2 | 伊達地方ＪＡ合併部落座談会（～17） |

# Ⅳ 資　　料

（平成５年度末現在）

## 1 組合員

（　）は戸数

| 正組合員 | | 准組合員 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 個人 | 法人 | 個人 | 団体 | 個人 | 法・団 |
| 728<br>(568) | 1 | 458<br>(416) | 23 | 1,186<br>(984) | 24 |

## 2 役員及び参事

| | |
|---|---|
| 代表理事組合長 | 理事　鴫原　長二郎 |
| 　　菅野　與一 | 理事　鹿股　文治 |
| 第一理事 | 理事　鴫原　又男 |
| 　　佐藤　金一 | 理事　宍戸　昭 |
| 理事　佐藤　久吉 | |
| 理事　金子　孝雄 | 監事　小野　泰男 |
| 理事　佐藤　努 | 監事　佐藤　定市 |
| 理事　佐藤　春雄 | 監事　小野　喜一 |
| 理事　吉田　昭男 | |
| 理事　齋藤　正 | 参事　遠藤　英則 |

## 3 職　員

| 男 | 女 | 計 | うち営農指導員 | うち生活指導員 |
|---|---|---|---|---|
| 22 | 7 | 29 | 2 | 1 |

## 4 協力組織

| 名称 | 代表者 | 会員数 |
|---|---|---|
| 農事組合連絡協議会 | 佐藤　四郎 | 729 |
| 婦人部 | 菅野　己美子 | 391 |
| フレッシュミセス | 小野　桃子 | 20 |
| 年金友の会 | 八城　善兵衛 | 200 |

## 5 生産部会

| 名称 | 代表者 | 会員数 |
|---|---|---|
| りんご部会 | 和田　登 | 74 |
| もも部会 | 金子　則道 | 138 |
| ぶどう部会 | 佐々木　昇 | 18 |
| おうとう部会 | 佐々木　利宣 | 77 |
| いちご部会 | 鈴木　晴夫 | 30 |
| きゅうり部会 | 鴫原　重雄 | 7 |
| 菌茸部会 | 八島　繁雄 | 6 |
| にら部会 | 佐藤　俊明 | 14 |
| 稲作部会 | 梅津　章 | 237 |

## 6 主な施設

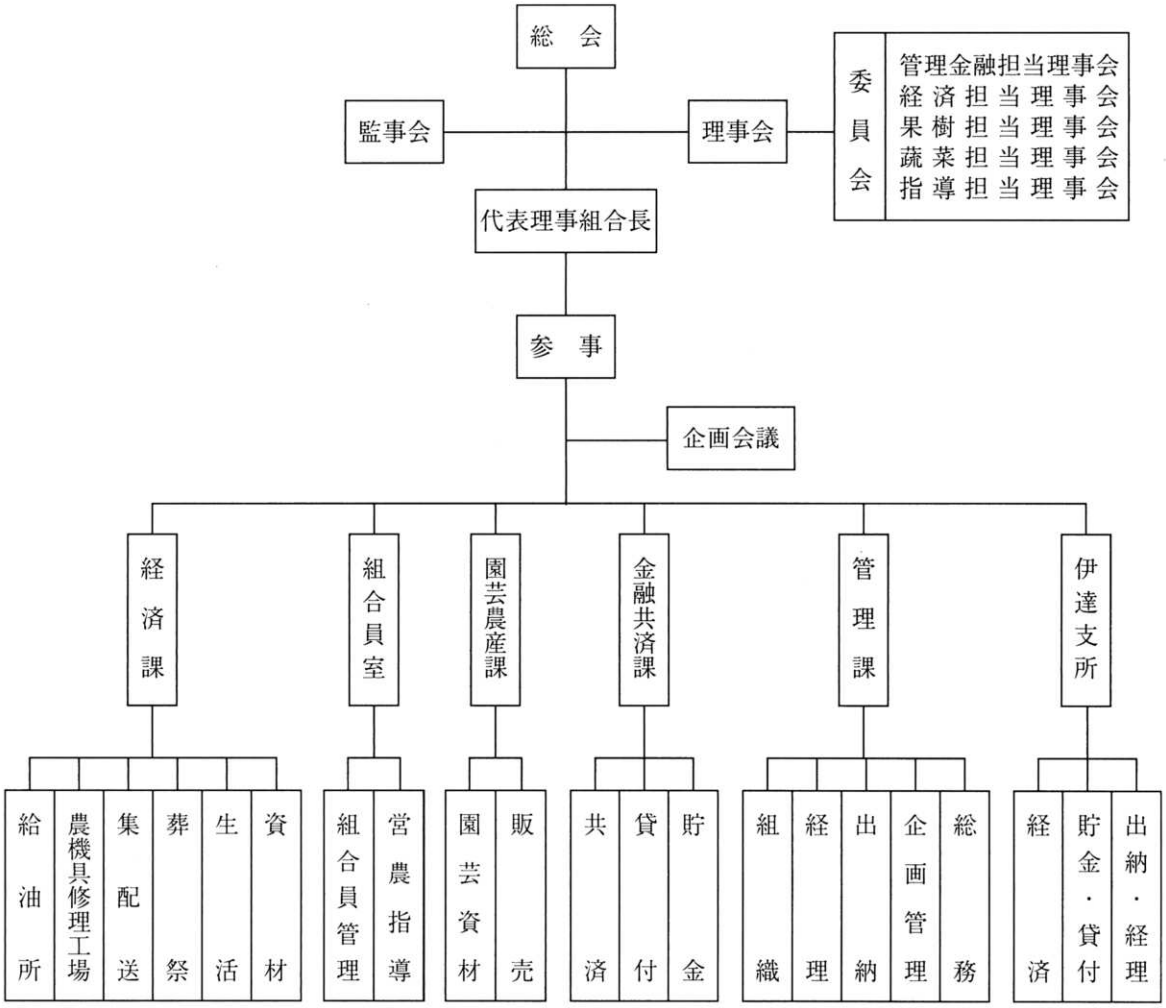
| 名称 | 所在地 |
|---|---|
| 本所事務所 | 大字伏黒字一本石1 |
| 農業倉庫 | 〃　〃　〃 |
| 購買倉庫 | 〃　〃　〃 |
| 農薬倉庫 | 〃　〃　12-2 |
| 肥料倉庫 | 〃　〃　12-1 |
| 選果場 | 大字箱崎字東1 |
| 〃　事務所 | 〃　〃〃 |
| 予冷庫兼資材倉庫 | 〃　〃〃 |
| やさい集荷所 | 〃　〃〃 |
| 開葯所 | 〃　〃〃 |
| 給油所 | 〃　字布川41-1 |
| 農機具修理工場 | 〃　字中道2-1 |
| 倉庫 | 〃　〃　2-2 |
| 支所事務所 | 字本町39 |
| 購買倉庫 | 〃〃 |

## 7 歴代組合長・参事

| 組合長 | | | |
|---|---|---|---|
| 37～44 | 小野　金雄 | 58～5 | 阿部　正喜 |
| 44～58 | 金子八郎治 | 5～ | 菅野　與一 |

| 参事 | | | |
|---|---|---|---|
| 37～42 | 大和田金二郎 | 52～63 | 松崎　政治 |
| 42～47 | 齋藤重次郎 | 63～ | 遠藤　英則 |
| 47～52 | 鴫原　一夫 | | |

## 8　経営管理機構




## 9　合併前の歴代組合長

伊達町農協

| | |
|---|---|
| 23～37 | 吉田　正雄 |

伏黒農協

| | | | |
|---|---|---|---|
| 23～26 | 伊東　又治 | 32～35 | 鈴木七郎治 |
| 26～29 | 小野政太郎 | 35～37 | 金子八郎治 |
| 29～32 | 谷米吉五郎 | | |

伏黒第一農協

| | | | |
|---|---|---|---|
| 23～26 | 宍戸　泰三 | 28～37 | 小野　金雄 |
| 26～28 | 鈴木　實 | | |